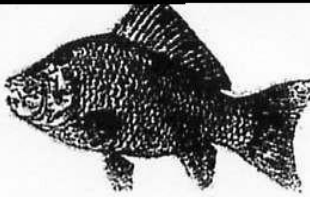


川づくり  清瀬の会

会誌 第19号 2013年 1月発行

発行者 宮澤とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616



雪が降った早朝、城前橋手前より柳瀬川の向こうに聳える富士山を写しました。

(撮影者：田中幸男)

## 目 次

新年を迎えて	宮澤 とよ美	2
新年会に参加して	戸塚 弘	3
多摩川由来の崖線の緑を考えるシンポジウム	大谷 恒子	4
とおったぞ！川の下の川	森田 晴彦	5
柳瀬川の思い出	澁谷 信之	6
愛すべき清瀬のせせらぎ	鈴木 隆司	7
柳瀬川の清掃	里見 英昭	8
市内一斉清掃とスイトンづくり	田中 くに子	9
ふれあいまつりに参加して	木村 芳信	10
お知らせ	宮澤 とよ美	10
河川と自然シリーズ⑦ モクズカニ（藻屑蟹）	宮澤 とよ美	11
川と温泉② 乳頭温泉郷（妙乃湯）	木村 芳信	12
日本の温泉事情	小西 一午	13
雑学（4回目）	田島 通夫	14
活動記録（2012年9月～12月）	大谷 郁夫	16
新合流点の工事状況	宮澤 とよ美	17
事務局だより	大谷 郁夫	18
編集後記	金内 彰	18

## 新年を迎えて

宮澤 とよ美

新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災から2回目のお正月を迎えました。震災と同時に人災でもある原発事故による広範囲の放射線汚染は、平和な日本にいながら棲家を追われるなど、苦悩の日々をすごしている多くの方々に思いを馳せます。

地震大国日本で「安全神話」は崩壊しています。清瀬市も河川内や落ち葉など数値は落ち着かず、基準値内とはいえ、セシウムとカストロンチウムなどと言われてもその毒性や影響について確たるものはなく、子育て真っ最中の皆様は、わが子の健康を案じ、不安を抱え放射線の影響を免れる方法はと模索をしています。

福島の状態を見るにつけ、命と環境よりも優先させるものがあるとは思いません。利便性よりもまず有害な化学物質や放射線による環境破壊のない日常が当たり前でなくては。そんな国民の思いとかけ離れ、今年も又経済優先の国政が進行しています。

さて、平成24年3月10日、氷雨の中、多くの方にご協力を頂いて、約800㎡の更地に115本のエノキ・クヌギの苗木を植栽いたしました。まだ幼木であるため林床には十分に陽が入り多種の草本を見ることが出来ます。最も多いのは四期を通して外来種ハイニシキソウ・セイヨウタンポポ・アカザ・オオイヌノフグリ・アメリカイヌホウズキ・ヨウシュチョウセンアサガオなどが見られ、春にはナガミヒナゲシから始まりシロツメクサ・ハルジオン他、多数のイネ科植物など74種を確認いたしました。

そして今、秋に芽生えたカラスノエンドウ（つる性の2年草）が一面に密生春を待っています。今年もどんな植生が見られますか、その変化を見つめて行きましょう。

河川に関わる団体として最も重要なことは、戦後の開発で崩されてしまった水循環を取り戻し、生物の多様性を求めることの出来る環境を保全、創出してゆくことだと思います。それには、大地に降った雨を地中に浸透させ、地中でゆっくりと浄化され、ミネラルを含んで清澄で豊かな川の流れを形成させる、緑地や畑地がとても重要です。

植栽地の維持管理用具を収納するために、物置があればと願っていたところ昨年暮れ近く、木村氏の働きかけで、思いがけず立派な物置を並木様宅から寄贈頂きました。

新合流点工事も25年度施工の予定です。完成後の余地には、旧柳瀬川となる対岸のエノキ・ムクノキを主体とした河畔林に相応しい植栽をもとめ、この植栽地と共に生き物の多様性と河川景観を益々豊かなものに育てて行けたらと思います。

今年もどうぞよろしく願いいたします。



(植栽地に設置された物置)

## 新年会に出席して

戸塚 弘

明けましておめでとうございます。

1月14日（成人の日）「川づくり・清瀬の会」の新年会が“同心居”で実施され、大雪の中19名の参加を頂きました。ありがとうございました。

思い起こせば同会設立以来、早10数年以上が過ぎました。開設当初、市の北部を流れる柳瀬川は市民にとって殆ど関心がなかったと思います。それが今日は会員皆様の努力と働き、行政（都・市）、河川沿岸の他市の関連の人達の協力によって「川づくり・清瀬の会」は大いに発展し、注目の的になってきております。

当会も高年齢会員が多くなってきました。しかし、幸いなことに会の趣旨に賛同し行動力のある方達が参加して、活動の中心となっています。大いに期待いたしましょう。

今年は更に多事多難の年を迎えております。環境フェアと川まつりの一体化、柳瀬川・空堀川合流点の改修等に皆様のご協力をお願いいたします。

水と緑の自然豊かな清瀬市が、住み良い街づくりに河川と環境が、観光のシンボルとなるように、柳瀬川と空堀川を中心に行動を進めて行きましょう。



平成 25 年 1 月 14 日（成人の日）清瀬市内緑道の雪景色。

## 多摩川由来の崖線の緑を考えるシンポジウムと ウォーキングラリーに参加して

大谷 恒子

昨年11月17日（土）に昭島市民会館で行われた「多摩川由来の崖線の緑を考えるシンポジウムとウォーキングラリー」に宮澤さんと一緒に参加しました。

身近な崖線の緑の保全「できることから・はじめよう」と銘打ったシンポジウムは、多摩川由来の崖線の緑を保全する協議会の主催で調布市、府中市、国立市、立川市、昭島市、福生市、羽村市及び青梅市の緑、公園、環境並びにまちづくり計画等の管轄行政課と東京都緑地景観課が加盟しています。

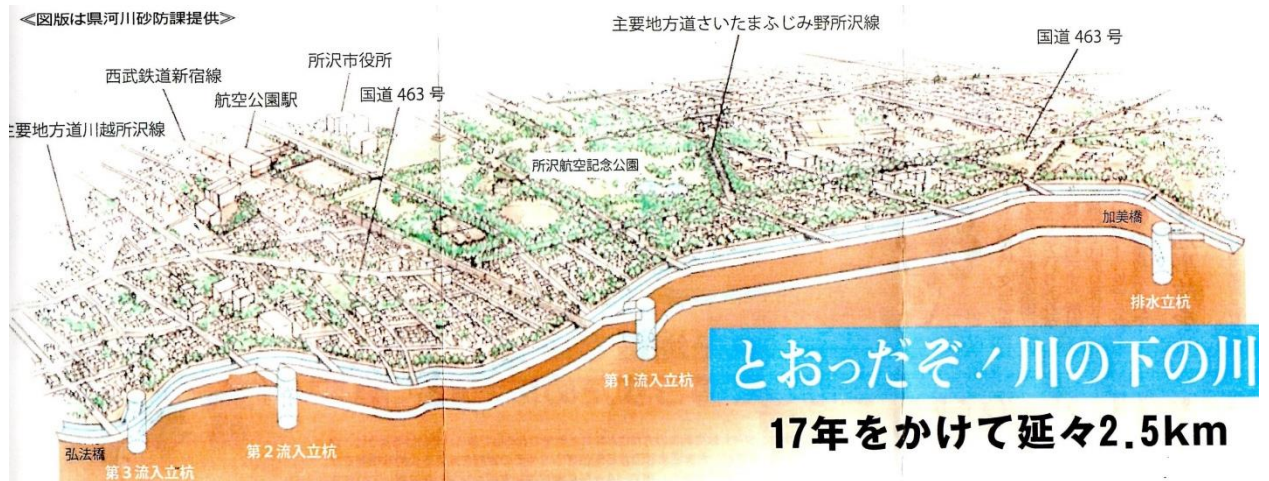
10時から12時までがシンポジウムで、先ず、福生市の都市建設部長と東京都緑地景観課長の開会挨拶に始まり、基調講演・安西英明氏（日本野鳥の会主席研究員）のお話があり、11時頃からパネルディスカッション（崖線の緑の保全に向け・みんなでできることをテーマとして）が行われた。パネリストは近藤富代子氏（福生萌芽会）、竹村茂己氏（大神・水辺の散歩道の会）、中島幹夫氏「はけの下」の自然を守る会）、野村亮氏（自然環境アカデミー）、そして、コーディネーターは安西英明氏で、それぞれ大変有意義で興味深いお話を聞くことが出来ました。各地で今ある緑を守るために、いろいろな活動をして、生物多様性の世界を維持して、持続可能な社会を創り出す努力を重ねていることが良く解りました。昼食を食べてから、市提供の立川バスで市立拝島市民会館へ行き、そこからスタートして市立福生第5小学校体育館まで、5か所のポイントでクイズに答えながら、湧水や九ヶ村用水の取水口跡等を見ることが出来、大変楽しいウォーキングラリーでした。帰りには、鳥の巣箱、苗木、オペラグラス、さらにシュロの葉で作ったバツタ等、盛り沢山のお土産を頂きました。また、このようなイベントがあれば、出かけて行きたいと思いました。



（湧水や生き物等いっぱい！ 多摩川の崖線）

# とおったぞ！川の下の川

情報提供：森田 晴彦



市内の中央を流れる東川の地下河川がついに完成した。県が総額120億円と17年の歳月をかけ、地下河川の工事をすすめてきた。

この計画がすすめられたのは、平成に入ってから東川の沿岸で4度、大きな家屋浸水を経験したため。原因の一つに、アスファルト舗装の増加による雨水の吸収力の低下。地面に吸収されない雨水が、東川に流入、氾濫することが多くなったため。

この解決へ、県は平成7年から「東川地下河川計画」を立てた。桜並木など周囲の景観を保全して工事を進めるため、シールド工法が最適であると判断された。このため地下の掘削工事中も東川の姿が変わることはなかった。

シールドによる掘削工事は、2期に分けて実施。第1期工事は、平成14年から開始。東川の約12〜20m下を、直径4.4mの大きさで1.2kmにわたって掘削、平成16年に終了した。第2期工事までの3年間、掘削済みの地下河川は、大雨が降ったときの貯留施設として利用した。

第2期工事は平成19年から開始。直径5.2mの大きさで約1.3km掘削し、ことし5月に終了。掘削した地下河川の距離は、のべ2.5kmの本格的な機能が始まった。

地下河川には、地上に伸びた3つの流入立杭から水が流入し、貯水される。地下河川への流水が止んだときは、排水立杭に備えつけられた施設で、水を排出する。

東川の沿岸は、古くから宿場町として賑わってきた。弘法の三つ井戸や、熊野神社など、古くから伝わる名所や史跡が多い。

地下河川が完成したことでも、浸水に強い、より住みよい街になってくれるだろう。▲

## 柳瀬川の思い出

澁谷 信之

小学校のころの教科書では、柳瀬川は東京都内の川の中でも特に汚染が進んだ川として記載されていたことを覚えています。そのような時代でしたので、川で遊んだ思い出は、実は子どもの頃にはありません。

1991年(平成3年)に、当時、青年会議所の理事長を務めていた澁谷金太郎さん(言うまでもないですが現在の市長さんです)に、青年会議所に参加するよう勧められました。そして初めて参加した事業が、川あそびという事業でした。柳瀬川は、遊べるほどきれいになっているのだろうか？ と疑問を持ちつつ参加すると、川の護岸も整備されて、一見したところでは随分水もきれいになっていました。(無論、そう見えただけで水質は悪かったのだらうと思いますが)



その時の写真です。懐かしい。川で子どもたちと遊んだこの事業は楽しくて、思い出に残っているのですが、残念ながら翌年には開催されなくなりました。

(平成20年から、きよせ川まつりとして開催されております。)

その後、川づくり・清瀬の会に誘われて現在に至るのですが、自分にとって川で遊んだ初めての経験がこの時で、忘れられない思い出となっています。

## 愛すべき、柳瀬川のせせらぎ

鈴木 隆司

私は生後すぐから都宮野塩団地に住み、爾来、50年となります。成人し一旦親元から離れたが、所帯をもって改めて野塩団地の今の住まいに移転し15年となります。私の住まう4階建ての棟のすぐ前に、柳瀬川が流れています。

川にはそれぞれ表情があるかと思いますが、

柳瀬川はとても優しい川ですね。朝な夕なにこの柳瀬川のせせらぎの音を聴いていると、そんな気持ちになります。私にとってのこの15年は、転職や母の逝去など、必ずしも心穏やかな日々で

はありませんでした。しかし、囁くような柳瀬川のせせらぎはいつも私を励ましてくれ、鯉が流れに逆らい泳ぐ水音が私に勇気を与えてくれました。

また、私の幼少の頃はドブ川だったこの川が、いつの頃からかとてもきれいになり鯉などの魚も棲むようになると、いっそう柳瀬川はまるで好々爺のような優しさを感じるようになり、今でも毎朝私の出勤時には、柳瀬川の鴨と白鷺の佇まいが、一幅の名画のように爽やかな朝を演出してくれています。

そんな素敵なお柳瀬川、そして清瀬の川をきれいにされようと身も心も捧げておられる会長の宮澤さんをはじめとする川づくり・清瀬の会のメンバーの方々には、心より感謝しています。

私も柳瀬川をそして清瀬の自然を愛する一人として、皆様とともにこのせせらぎを大事にしていく所存です。今年もよろしくお願ひ致します。



(溪流を思わせるようなきれいな流れです。)



(コサギが小魚を狙っています。)



## 柳瀬川の清掃

里見 英昭

4年位前に「柳瀬川の清掃」と書いてある市報を見て家族で参加するようになりました。

下宿地域市民センターから金山公園までの川沿いを子供たちと軍手・トンガー・ゴミ袋を持ってテコテコ歩きながらゴミ拾い「ゴミ発見！！」と叫びながら進んでいきます。清瀬に引っ越して来て早24年余り、子供が出来るまでは柳瀬川沿いなど歩いたこともなく子供が出来て散歩するようになり、柳瀬川に接するようになりました。

春・夏・秋はザリガニや昆虫。冬は鳥を見たり霜柱を踏みつけたりしています。清掃に毎年参加するキッカケは、初めての清掃中に「カワセミ」を見たからだと思います。生まれて初めて見ました。父38歳、子供4歳と3歳。今でも見つけては楽しそうに「カワセミ発見！！」と小さな声で伝えに来ます。

これからも少しは綺麗になればと思い参加していきたいと思います。



里見さんのお子様の作品です。  
右側の太陽の下に「カワセミ」が描かれております。

## 市内一斉清掃とスイトンづくり

田中 くに子

今秋の市内一斉清掃は、11月11日（日）に実施されました。私は以前、下宿市民センター前に集合し、9時出発で城前橋から上流に向かってゴミ拾いの方に参加しました。11時30分頃に金山緑地公園入口のゴミ集積所にとどり着きました。

市役所の方からは、川の中は危険だから入らない様にと言われましたが、むしろ川の中の方がゴミがからまっていたり、巨石護岸の法面に生えた木の元にゴミが巻き付いてそれを取り除くのが大変でした。今では、レンジャーの方達がゴミ拾いをしてくれ、日常的にきれいになっております。

ところで私が、金山橋下でのスイトンづくりに加わるようになって幾年たったのでしょうか。川づくり・清瀬の会、初代会長の神澤さんが存命の頃でした。

前もって誰が何をかうか分担して材料を購入、大根等の差入れもあったりして、材料は豊富でした。皆で里芋の皮をむいたり、大根・人参など材料全部をその場で切り、賑やかに楽しく準備し、11時30分頃迄にスイトンを仕上げました。大勢の参加者が美味しい、美味しいと食べてくれました。

緑の募金箱を置いて呼び掛けもしました。

それが近年は清掃が10時30分頃には終わって、折角のスイトンを食べずに帰る人達がいたりするので、すぐスイトンづくりを始められる様、里芋以外は家で切って行き、9時には釜に入れるようにして、10時頃には清掃が終わって来てくれる人達をお待ちしております。

3つの釜一杯に仕上がって、いい香りがしているのに食べて呉れる人達が少なく、散歩の人達にも声をかけて食べてもらった事もありました。

今年も来て呉れた人達が少ないので、市役所の方に聞いたところ、金山橋から下宿市民センターへ向かっての清掃を行ったそうです。これではなかなか戻って来てくれる人が少ない筈です。

近年、市役所の予算で川づくり・清瀬の会がスイトンづくりをやるのはおかしいとの意見が出だしたとのことでした。

当会としてはスイトンづくりをお願いしたり、雨模様を気にしながら材料を買いに行く心配。まな板・包丁・ボール等全ての道具を持ち寄ることも大変。後片付けもなくなることを思うとほっとした気持ちになったのが正直なところです。



(煙に涙を流してスイトン作り。)

## ふれあいまつりに参加して

木村 芳信

ふれあいまつりを知ったのは、数年前に会場整理を依頼されてからで、その後値付け、野菜販売等をお手伝いいたしました。ふれあいまつりは、社会福祉協議会が中心のお祭り  
で、ここでの売り上げが社会福祉活動に役立てられます。

今回は、昨年の11月23日（金）に、清瀬市コミュニティプラザひまわりで開かれました。

8月頃から打ち合わせを重ねて準備しましたが、残念なことに当日は小雨の中の開催となりました。出足は鈍かったが、大勢の方がお見えになり、前年より売り上げが多かったとのこと。皆さんの



社会福祉への関心の賜物だと思っています。当会は、展示部門での参加で、1Fの105の部屋で、早朝に柳瀬川で多くの魚が捕獲出来、水槽一杯の魚の展示が出来ました。同室にはダイオキシン、放射能から子どもを守る会 in 清瀬、自然を守る会、ワンワン柳瀬川の会等が展示を行っていました。このような催し物は、市民の方が福祉活動、市民活動に目を向けるきっかけとなり、清瀬市の明るい街作りに参加する場になると思っています。これからも微力ではありますがふれあいまつりが大きなイベントに成るよう参加していきたいと思っています。

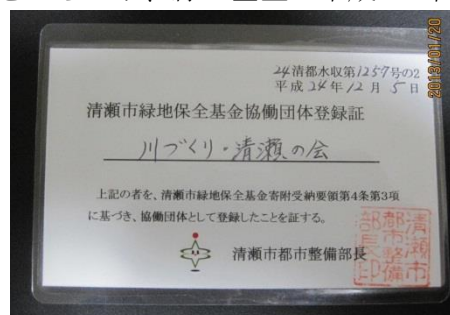
### お知らせ

◆清瀬市緑地保全推進委員会に加入いたしました。

嘗てより宅地開発が日常的に進み、市の貴重な財産である「みどり」が目に見えて減少しています。清瀬市は、清瀬市緑地保全推進委員会を立ち上げ、緑の基金で平成15年に中里一丁目緑地を、平成16年に下清戸道東緑地と神山緑地を購入、平成22年度に神山緑地の隣接地を購入、公有地として、次世代に残すことが出来ます。

その制度も平成24年11月5日に解散し、公有地化を一步進めるために、新たに緑地保全基金協働団体を募りました。

当会も幹事会で協議し、緑の重要性を理解した上で上記基金協働団体として、登録することになりました。どうぞよろしく申し上げます。



## モクズガニ（藻屑蟹）・大竹君との出会い

エビ目（十脚目）・カニ下目・イワガニ科

宮澤 とよ美

柳瀬川下流から「モクズガニ」の情報を得て久しく、そして平成18年夏、城前橋上流左岸側のごみを拾っていると、「そこんところでモクズガニをとったよ!」と顔なじみの釣り人さんから声がかかり、清瀬まであがってきていることに確証を持ちました。それからは是非その姿を見たいものと、川に入るたび探しますが出会えませんでした。

平成23年7月の川まつりも終わろうとする間際、無造作にズボンのポケットから、15cm程もの大きなテナガエビ数匹を取り出して驚かされたのが、下里中学の大竹君です。「ここにはモクズガニもいるようですが見ていませんか?」「いますよ! 捕ってきましょうか? 今が捕りやすい時期です」彼は何も持たずに流れの中へとんで行き、10分もしないうちに、写真のような見事な♂モクズガニを手に戻ってきました。

よく見ると、側縁部にはノコギリの歯状のとげが3対あり、そのはさみの立派さ、又名前の語源や特徴でもある鋏脚に付く黒褐色の密生した毛が目立ちます。

そしていとも容易く捕獲してきた大竹君の魚に対する知識の豊富さに唖然としました。勿論それ以来彼は当会の頼りになるアドバイザーさんです。



(大竹君の手からはみ出るモクズガニ。)

秋から初冬にかけて成体は繁殖のために川を下ります。モクズガニの甲幅は大よそ7-8cm、重さは180gほど。川に産するカニの中では大型種です。鋏脚に付く毛から「モズク」を連想してしまうのでしょうか、「モズクガニ」と間違えやすい。地方によっては、モクゾウガニ・ズガニ・ツガニ・ヤマタロウ・ヒゲガニ等々多くの別名があります。「上海蟹」と同属異種のこのカニは、各地で食用として捕獲されています。

### ◆空堀川でも確認した・モクズガニ

平成24年10月29日、空堀川薬師橋落差工の淵でモクズガニ♂が捕れました。この淵は、鯉やオイカワが多く、いつも子供たちが泳ぐ場所です。この護岸まで洗掘されてしまった淵を護岸に沿って埋め立てる時の作業前に、ここに棲む小魚を投網によって救出したその投網に掛かったのがこのモクズガニ♂です。

早速四小の環境学習に活用後淵に戻しました。



## 川と温泉 ② (乳頭温泉郷 妙乃湯)

木村 芳信

日本には、川の近くに温泉が数多くある。その中でも露天風呂(混浴)が好きで有る。今回は、秋田県の十和田・八幡平国立公園 乳頭山麓に点在する「乳頭温泉郷」です。場所は山梨県の西湖でみつかった、まぼろしの魚クニマスで有名な田沢湖から山間を登って行きます。

現在の田沢湖には、酸性の水質にもある程度耐えられる、ウグイ、コイ、ギンブナの3種類の魚が生息しているそうです又田沢湖には、永遠の若さと美貌を願い、湖神となったと伝えられる、伝説の美少女たつこ姫のブロンズ像が有ります。その姿は澄んだ青い湖水を背にして清楚であり、水深423.4メートルと日本一を誇る田沢湖の岸近くにあります。



乳頭温泉郷には、7つの温泉旅館があり独自に源泉を持ち、その泉質は多種多様で十種類以上の源泉があります。行ったのは10年も前であるが記憶に残る温泉であります。

何故ならば目的の旅館が山間部で、台風が日本に接近し予想進路上にあり、東京を出るときは、晴れていたが台風に追いかける様に東北道を走ったが、その日の夜に台風が通過していきました。旅館は溪流沿いに有り、夜間は風雨が強く又溪流は濁流に変わっていきました。(怖い) 右の写真は、着いたときの溪流の写真で、夜半より濁流でした。



泊まった旅館は、女性に人気の妙乃湯です。(後で知った) 部屋には、テレビなどは無く静かに時間だけが過ぎていきます。

妙乃湯の源泉は2種類で、カルシウム・マグネシウム・硫酸塩泉と単純泉です。又ここにも混浴露天風呂が有りました。(しっかりと入りました) 食事も大変美味しかったです。乳頭温泉郷は、良くテレビ等で紹介されており1度はいつかみる価値があると思います。

帰った後に旅番組で数回にわたり泊まった部屋での放送があり、泊まった部屋だと亡き妻が喜んでいたのを思い出します。また行ける機会があれば、乳頭温泉郷の中で最も古い歴史がある“鶴の湯”に行ってみたくと思っています。次回は・特別天然記念物「北投石」で有名な玉川温泉を予定しています。

## 日本の温泉事情

小西 一午

日本人の温泉好きは世界でも類を見ないほどの勢いである。温泉に浸って日頃の疲れを癒したり、ストレスを解消しながら自然と親しむレジャーは日本人の好みにピッタリなのだ。日本の温泉地は名のおっているものだけでも約四千箇所もあり、最近の統計では国民一人当たり年二回強も温泉地を訪れたことになっている。

16世紀ごろから一般に利用されてきた温泉であるが、1945年戦後の高度成長期に入るにつれ、「たまには温泉に入っておいしい料理を食べたい」という思いが多くの人足を温泉地に運んだ。更に職場の慰安旅行と続き最初の温泉ブームとなったのである。これに続くのは若い女性中心の「秘湯ブーム」である。それまで若い女性には、温泉は「おじん族」の行くものというイメージがあり敬遠されていたものが一転して彼女らを魅了することになったのである。更には週休二日制の浸透と相俟って「温泉に入って、地元の珍しい料理を食べたい」として家族連れや気の合った仲間同士（特に若い女性たち）が温泉観光地を賑わしていたのである。

日本人がいつ頃から温泉を利用していたかについては約六千年前の縄文前期にすでに人々が温泉を愛用していた痕跡を温泉地跡や湯垢らしいものがこびりついた土器片などの発掘で立証されている。又日本各地に散在する遺跡には現存の温泉近くにあるものが多く、何らかの形で人々が温泉に関わって生きていたことが想像される。

平安時代には貴族たちを中心に楽しまれてきた温泉行だが、中世に入り武士が台頭し温泉の利用も幅広くなっていく。日本において初めて武家政治を打ちたてた源頼朝が若い頃伊豆の地に流されていた時たびたび配所を抜けだし、伊豆山温泉（現修善寺温泉）で北条政子（その後頼朝の妻となる）との逢瀬を重ねていた話は有名であるし、武田信玄も甲斐の「しまの湯」（現甲府市湯村温泉）や下部温泉などのいわゆる“かくし湯”をもってたびたび利用していたらしいし、織田信長も武田合戦のあと草津で湯治したということが「信長公記」に記録されている。豊臣秀吉も淀君を連れて有馬温泉によく行っていたと記録されているし、徳川家康も無類の温泉好きで特に熱海温泉がお気に入り江戸幕府を開いてから将軍家献上湯として年間四百樽以上のお汲み湯を江戸に運ばせていたと云うのが「熱海市史」に見えている。

前述のとおり今完全に庶民のものとして温泉が広く利用されているので、これを温泉事情の総論としてまとめてみたので、木村会員が川と温泉として温泉各論を前号から連載しているのと併せてお読みいただければ幸いである。

## 雑学（4回目）

田島 通夫

正月の声を聞くと何となく暦を意識するのは私だけでしょうか？

こんな時、ある所から変わったカレンダーを戴きました。各月に沢山の呼び名があるのにビックリし、また、強い興味を覚えました。

ジックリ見つめるうち自然と共に生き、自然を愛でる日本民族の感性にグイグイと引き込まれました。

また、日本語の美しさ奥深さに強い感銘を受けました。何か俳句の季語を追いかけているような1年の自然の流れが良く分かります。

一方、チョット違和感もあります。この感覚は現代のカレンダーと陰暦とのズレが大いに関係しているようです。皆さんも、オヤッと思われるものがいくつかあると思います。

以下列挙いたします。

### 1月

睦月（むつき）  
正月（しょうがつ）  
祝月（いわいづき）  
初春月（はつはるづき）  
初空月（はつそらづき）  
太郎月（たろうづき）

### 3月

弥生（やよい）  
桜月（さくらづき）  
桃月（とうげつ）  
花見月（はなみづき）  
春惜月（はるおしみづき）

### 5月

皐月（さつき）  
早月（さつき）  
橘月（たちばなづき）  
菖蒲月（しょうぶづき）

### 2月

如月（きさらぎ）  
梅見月（うめみづき）  
麗月（れいげつ）  
初花月（はつはなづき）  
雪消月（ゆきげづき）  
木の芽月（このめづき）

### 4月

卯月（うづき）  
卯花月（うのはなづき）  
鳥待月（とりまちづき）  
花残月（はなのこりづき）  
夏初月（なつはづき）  
清和月（せいわづき）

### 6月

水無月（みなづき）  
水月（すいげつ）  
田水之月（たみのづき）  
葵月（あおいづき）



早苗月（さなえづき）

多草月（たぐさづき）

7月

文月（ふみづき）

蘭月（らんげつ）

七夕月（たなばたづき）

愛逢月（めであいづき）

文披月（ふみひろげづき）

女郎花月（おみなえしづき）

9月

長月（ながつき）

菊月（きくづき）

詠月（えいげつ）

菊間月（きくまづき）

寢覚月（ねざめづき）

紅葉月（もみじづき）

11月

霜月（しもつき）

霜見月（しもみづき）

霜降月（しもふりづき）

葭月（かげつ）

雪待月（ゆきまちづき）

神楽月（かみぐらづき）

涼暮月（すずくれづき）

鳴雷月（なるかみづき）

8月

葉月（はづき）

桂月（けいげつ）

木染月（こぞめづき）

月見月（つきみづき）

燕去月（つばめさりづき）

雁来月（かりくづき）

10月

神無月（かんなづき）

神去月（かみさりづき）

良月（りょうげつ）

時雨月（しぐれづき）

初霜月（はつしもづき）

雷無月（かみなかりづき）

12月

師走（しわす）

極月（ごくづき）

臘月（ろうげつ）

年積月（としつみづき）

暮古月（くれこづき）

春待月（はるまちづき）

如何でしたか？ご存知のものがありましたか？

睦月・如月などは馴染みがありますが、1月の太郎月、2月の麗月、4月清和月、8月桂月、9月詠月、10月良月、11月葭月・神楽月、12月臘月、何の事やら見当つかず。こんなに沢山の表現された背景と言うか経緯が分かればもっと面白く楽しくなると思われます。

一方、時季がずれているのではないかと思われるものもありますね。

例えば2月の雪消月。2月は雪の一番多い月。木の芽月も少し早すぎです。

3月の春惜月、これも春に入ったばかりでまだ風は冷たく雪も降る時季です。

4月夏初月、8月燕去月もオヤッ？の一つ。

八百万の神が宿る自然や自然現象に畏敬の念や感性を持ち自然との共生から生まれた大和民族の素直な感情と思われます。



## 2012年9月～12月 活動記録

- 9月2日(日) 群馬県板倉町見学会(エコシティ志木)  
\*市川、鈴木、加瀬、木村、宮澤、大谷(2)
- 9月3日(月) 第14回柳瀬川、空堀川流域連絡会(河川環境・水循環分科会)
- 9月5日(水) 編集作業(木村宅)\*木村、金内、大谷(郁)
- 9月6日(木) 第5回幹事会(会誌18号、昆虫観察会、報告事項ほか)\*8名
- 9月7日(金) 昆虫観察会(三角地:空堀自然の森)  
\*横山(昆虫学者)、田中、大島、宮澤、大谷(恒)
- 9月11日(火) 空堀川の伐採立ち会い(北北建:牧野氏)\*宮澤、大谷  
(夕方)新河岸川流域連絡会(野塩市民センター)  
\*宮澤、加瀬、大谷
- 9月18日(火) 会誌編集作業(木村宅)\*金内、木村
- 9月26日(水) 編集委員会(会誌18号作成)  
\*田島、加瀬、望月、金内、木村、大谷(2)
- 9月29日(土) 会誌の印刷\*望月、金内、木村、戸塚、加瀬、宮澤、大谷(2)
- 10月4日(木) 第6回幹事会(空堀川ウオーキング、三角地植栽ほか)  
\*戸塚、田島、加瀬、田中、木村、宮澤、大谷(2)
- 10月13日(土) 植栽地の草刈り\*大島氏
- 10月15日(月) 空堀川マーキング(北北建業者立ち会い)\*加瀬、大谷、宮澤
- 10月16日(火) 空堀川源流ウオーキング下見\*金内、木村、大谷(2)
- 10月17日(水) 環境フェア実行委員会(コミュニティプラザ)\*大谷
- 10月18日(木) 清瀬市長との懇談(新合流点の緑化、施工工事の進捗状況、6000㎡  
の跡地工事の確認)(対応)渋谷市長、中沢副市長、黒田都市整備部  
長\*戸塚、宮澤、加瀬、田中、金内、木村、大谷(2)
- 10月23日(火) きよせふれあいまつり実行委員会(実施要領ほか)\*大谷
- 10月27日(土) ~28日(日) 市民活動展示会(活動センター)\*魚・パネル展示  
\*矢島、増田、斉藤、丸山、金内、木村、加瀬、大谷(2)、宮澤、
- 10月29日(月) 流域連絡会・見学会(金山調節池、芝中調節池、東村山市ワンドほか)
- 10月30日(火) 空堀川の清掃(梅坂橋)\*森、松岡、海保、市川、酒井、金内、  
木村、田島、戸塚、田中、宮澤、大谷(2)
- 10月31日(水) 第4小2年生の環境学習\*宮澤、田中、大谷
- 11月1日(水) 第7回幹事会(市内一斉清掃、会誌19号、ホームページ更新ほか)  
\*田島、田中、加瀬、木村、宮澤、大谷(2)
- 11月11日(日) 市内一斉清掃(下宿センター)柳瀬川遊歩道(城前橋~金山橋)  
\*松崎(2)、小西、丸山、金内、福田、大竹、赤塚、戸塚、田中、  
里見(3)、菅原(2)、加瀬、宮澤、大江、大谷(2)
- 11月12日(月) 展示用パネルの作成(せせらぎ管理棟)\*金内、木村、大谷(2)
- 11月12日(月) 市役所にて、環境フェア・川まつり同時開催の決定報告を聞く  
\*宮澤
- 11月15日(木) ふれあいまつり実行委員会

- 11月16日(金) 臨時幹事会(環境フェア・川まつり実行委員選出、緑地保全基金委員会加盟、ふれあいまつり役割分担)
- 11月17日(土) 八市共催 多摩川崖線のシンポジウム&ウォーキング  
\*宮澤、大谷(恒)
- 11月22日(木) ふれあいまつり準備(会場の設営手伝い)\*宮澤、加瀬、木村、大谷
- 11月23日(金) ふれあいまつり(コミュニティプラザひまわり)  
\*戸塚、田島、田中、加瀬、金内、木村、斉藤、渋谷、矢島、増田  
宮澤、大栗、大谷(2)
- 11月26日(月) 新合流点工事について北北建との話し合い\*宮澤、正木
- 11月27日(火) 環境フェア実行委員会(川まつりとの1本化)
- 11月29日(木) 御成橋ワンドの補修作業\*宮澤、大谷(恒)、大島
- 12月5日(水) 植栽地用・物置。中里/並木氏宅から寄贈。トラックにて運搬、設置。  
\*原剛、望月、金内、木村、加瀬、大島、宮澤、大谷(2)
- 12月6日(木) 第8回幹事会(環境フェアと川まつりの1本化への対応、会誌19号掲載内容、新年会ほか)\*10名
- 12月9日(日) 物置設置用器具購入(青梅・カインズホーム)\*木村、大谷
- 12月10日(月) 植栽地・物置器具設置\*木村、大谷
- 12月25日(火)(仮)川まつり、環境フェア実行委員会(健康センタ)\*金内、加瀬

**新合流点の工事進行状況 24年度、新川左岸工事が進んでおります。**

10月30日よいよ新合流点の工事が始まりました。24年度計画は、柳瀬川・空堀川をつなぐ新河川の左岸の護岸工事です。河川予定地に深さ約5m掘られ基礎づくりから始められました。川底では、多くの湧水が湧いているのでしょうか。流れる水音が聞かれます。

現在、くるまや橋近くまで進められています。工事完成後はしっかりと緑化して、水辺と緑の景観・環境共により場所となりますよう提案して行きましょう。



(新合流河川左岸工事)



(くるまや橋付近)

## ◇◇ 事務局だより ◇◇

### ■「会誌への投稿お願い」

川づくりの会誌も 2010 年度から年 3 回発行しており、早いもので 3 年目に入っております。会員皆様からの情報及び投稿により、会誌内容の充実化を図る所存ですが、情報不足は否めません。会誌は本来、会員皆様からのご意見、情報などにより、作成するのが最適であると確信しております。ついては、会誌への投稿をお待ちしております。5 月号以降、随時受け付けておりますので、なにとぞよろしくごお願い申し上げます。(テーマは自由です。なんでも結構です)

### ■「植栽地の物置入手」

昨年の 3 月に三郷橋横の植栽地に、会員皆様からエノキ、クヌギ、コナラなど 110 本の苗をいただき、植栽を行いましたことは既にご承知のことと存じます。

その後、一部の会員による維持管理作業が行われておりますが、その間、外来種を含め、様々な植物が数多く出てきているため、さらなる維持管理が必要であります。

さらに、植栽に関する器材(シャベル、鍬など)の準備、更にはそれらの保管場所も必要になってきた、そんな折、木村会員のお世話により、中里 1 丁目在住の清瀬市民より、このたび、1 坪大の物置を無償でご提供いただきました。(感謝!感謝!)

この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、暖かくなった時期に、会員皆様のご協力により外来種の駆除など植栽地の管理作業を実施したいと考えています。その節はよろしくごお願いいたします。

### ❖編集後記

前号(18号)作成の9月は残暑厳しき頃、首都圏は真夏日の連続記録更新中だった。そして、19号作成の現在は寒さに震えている状態だ。1月14日(成人の日)の大雪には驚かされた。まるで雪国と勘違いするような雪の降り方だった。

皆様のご協力により「川づくり・清瀬の会」の会誌、19号が完成いたしました。今回もユニークな原稿を頂戴いたしました。本当にありがとうございました。

20号、21号への積極的な投稿をお願い申し上げます

### ■お願い

空堀川の清掃にご協力下さい。

- 1.実施日 平成 25 年 3 月 3 日(日)
- 2.集合時間 AM9:30
- 3.集合場所 梅坂橋・広場
- 4.お汁粉をご用意いたします。  
※お碗をご用意のうえお集まり下さい。

川づくり・清瀬の会 事務局 大谷方

〒204-0004 東京都清瀬市野塩 1-156-5 401

電話(042)495-9052

e-mail [i-otani@line.jp](mailto:i-otani@line.jp)

ホームページ <http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>